

# 孫の手通信

「玉川孫一郎と歩む会」 Tel 0475(42)1400

孫一郎君へ

一宮町宮原 坂野 勝英

一宮橋がまだ木の橋であった頃、小学校の帰り道、本を読みながら毎日木造の橋を渡って船頭給の我が家へ帰る友がいました。時々、本の内容に興奮してか、右手をふりかざしながら帰る友のうしろ姿を不思議な思いで見っていました。

六二歳の夏、私は玉川孫一郎君に誘われて「未来の上総一宮をつくる会」のメンバーになりました。二人とも定年を迎えるまで勤務地と我が家を往復するだけで、故郷の一宮町について申し訳ないほど、関心が薄かったように思います。「未来の上総一宮をつくる会」に出席する度に、現在の一宮町の状況やメンバーの人達から一宮町が、いかに素晴らしい環境に満ちている町か、改めて知らされ、感心するやら地元の人間として恥ずかしいやら複雑な気持ちになりました。

ところで玉川孫一郎君は多少不器用なところがあります。世を渡る上で誠実に純粋に信念を貫こうとすれば当然不器用な生き方に見えてしまいます。しかしこの頃人間として幅が出てきたように思います。それは多分玉川孫一郎君が今までの人生の中で初めてと云っていい大きな「志し」が芽生えたからだと思えます。「志し」—— 久しく忘れていた言葉です。しかし人間として、男として一番大切な心がけだと思えます。

一宮町に新しい風を吹かせ、安心安全で楽しくそして一宮町に住んでいる事を誇りに思える町づくり、そんな志しを勇気をもって挑戦しようとする玉川孫一郎君を友として誇りに思っています。

高野辰之の『故郷』という詩に「志しを果たして、いつの日にか帰らん、山はあおきふるさと、水は清きふるさと」という一節があります。少年時代熱心に本を読みながら真つすぐに歩いていった玉川孫一郎君、どうか大きな志しを果たして下さい！

私たちは応援します。



## 第3号

平成 20 年 4 月 11 日

<http://magoichiro.blog47.fc2.com/>

メール mago\_tama@yahoo.co.jp

QRコード:



## 孫一郎の政策

### (1) バス

子供から高齢者まで  
手軽に利用できる  
町内循環バスを  
走らせよう

玉川 孫一郎

ある日、海岸区の支援者の自宅でお茶を飲みながら近くに住む皆さんとお話ししました。皆さん東京や神奈川などから豊かな自然に恵まれた一宮町へ移ってこられた方々でした。高齢化によって将来、自転車や車を運転できなくなったら買い物もできないし通院もできないし、どうしたらいいかという話が出ました。そのときは、また東京に戻るしかないというさびしい話も出ました。高齢者の足をどう確保したらいいか、深刻な問題です。私も現在車を運転していますが、十年後、二十年後を考えると同じ不安を抱えています。

私は、現在となりのいすみ市が、国土交通省の補助金を受けて実施している循環バスの試行（子供無料、中学生一〇〇円、大人二〇〇円）をぜひ一宮でも実施したいという、お話をしました。（三月六日、いすみ市の担当課に調査チームを派遣しました。）町中をぐるぐる回る循環バスは、車を運転できない高齢者や障害者の足として、通学する児童の足として、観光客の足として、町民の生活の足として、またCO<sub>2</sub>を削減し、環境を守る面でも大きな役割を果たします。

福祉タクシーや乗合タクシーといった方策もあわせて検討して、公共の足を確保したいと考えています。実現のためにはいろいろ難しい問題もあると思いますが、町民の皆様の協力を得て、ぜひ実現したいと思えます。

## 乗合バスの運行について新町政に望む

一六区シルバー协会会长 齋藤 純男

今、一宮海岸地区に住む独居老人が町の中心に買物に出ようとする。バスの時間を見ると朝一番は七時五〇分頃とあるがこれは小中学生で満員で乗れない。次は何と七時間後の午後三時一〇分であるが町内で用を足すとなると帰りのバスがない。つい最近まで午前十一時三〇分ごろのバスがあったが乗客不足で今はなくなり、とにかく現在のこのような運行ではもはや市民の足としての機能はない。

隣のいすみ市では、市内に山村を含む二三〇以上のバス停留所を設けて試験運行中と聞く。採算上、全部の系統が残るとは考えられず、まして我が一宮にこのような大規模なバス運行は望むべくもないが、市民の足としてささやかな提案をお年寄りから伺ったのでここに紹介する。彼女は八〇歳余、両足ひざが悪く、一人暮らしで買物や医者にはタクシーを利用するしかない。なま物のおかずは貴重で少しづつ大切に食べ、唯一の楽しみはスーパーで、自身で買い物する事だけとのことである。

さて彼女提案のバスシステムとは――  
①客から要求がある度に運行するいわゆるデマンドバスを町営して欲しい。デマンド方式でなければ採算は取れないはずであり、ある程度乗合者が揃うまでの時間待ちは厭わない。  
②曜日を決め一週当たり二日程度の運行でもよい。例はよくないがゴミトラック回収と同じシステムをとれば車体数を減らすことができる。  
③現在バス代二〇〇円、タクシーだと八〇〇円であるが、デマンドバスは三〇〇円程度でもいいから出来るだけ自宅の近くから、そして目的地の近くまで運んでいただきたい。

福祉タクシー、構内タクシーとの兼ね合いもあり、難しい点もあるでしょうが、どうか特徴あるバスシステムをわが町に作り老人社会にも光を与えていただきたいとのことでした。

## 私がバスを必要と思う理由

新熊区 小松 久里子

私は、サーフィンが大好きで、海のある良い環境のこの地に移り住みました。海からはなれる事など考えられないために、将来は、自分達が両親を呼んで、いっしょに住みたいとも考えています。車を運転できない母が、気軽に出かけられない環境に来てくれるのか心配です。今でもたまに不安に思う事がありますが、急な車の故障に、代車を出してもらえなかった時、急にとじこめられたような、今までには気付かなかった気もちでした。

これから、子供も大きくなってきて、高校、大学へ行くようになった頃、自転車以外の通学手段が自家用車だけというのは、プレッシャーに感じます。まして、女の子の場合はもっと不安です。バスさえあれば、住民の多くがそのプレッシャーから解放されるのではないかと考えます。



# 住民力!

ICHINOMIYA TOWN

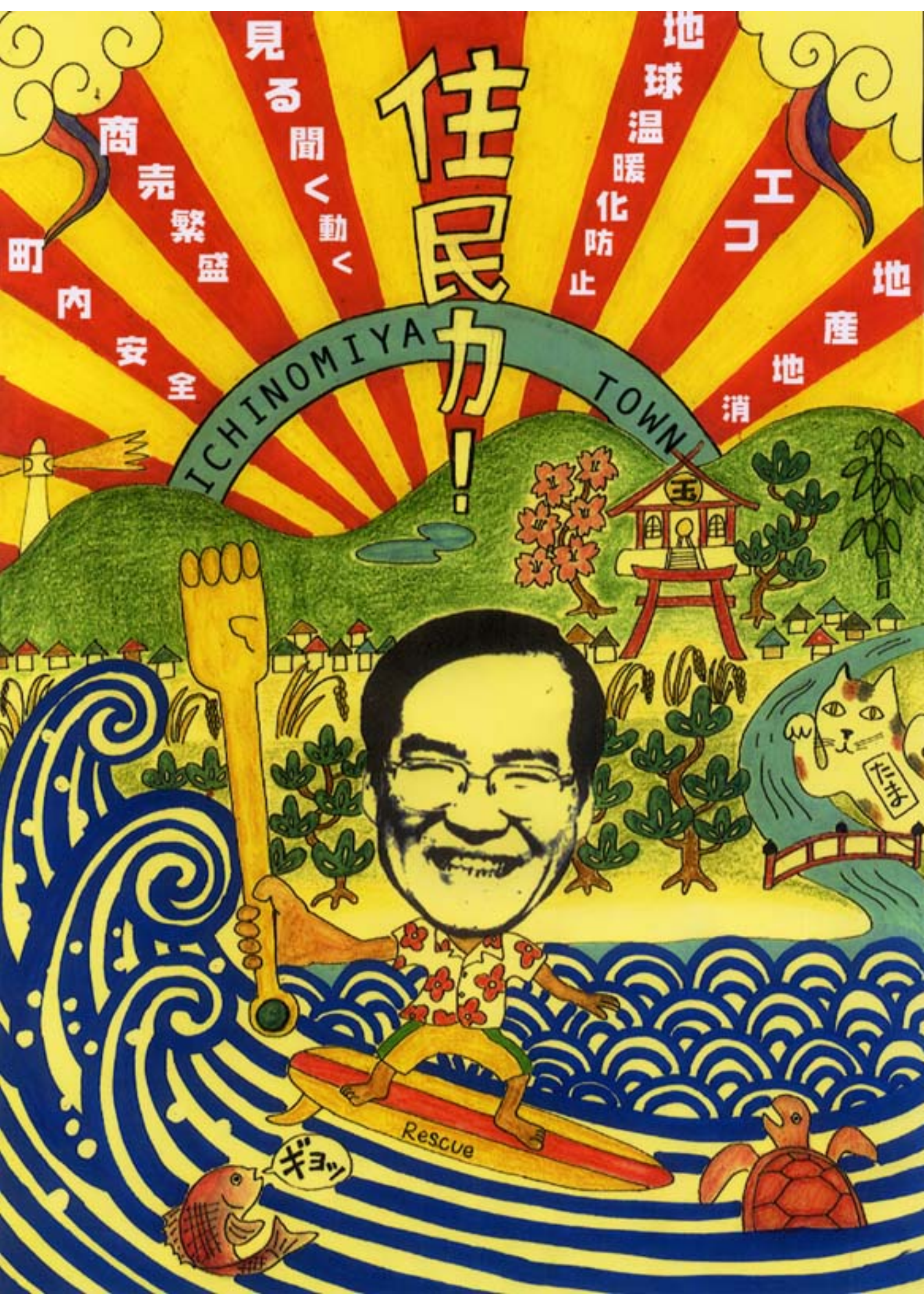
見る間く動く

地球温暖化防止

エコ

地産地消

町内安全  
商売繁盛



ギョッ

Rescue

地産